猫的な徒然草

浅川恵菜

はじめのいっぽ

なんだかとってもさむい　おふとんのなかで
おかーちゃんに　しがみつく
なんだかとってもひえるにゃ　おふとんのなかの
おかーちゃんの　くびにくっつく

「わー！」
・・・なんか　おかーちゃん　うかれてるにゃ
「ほーら！　それっ！」
ええっ？　にゃんでそとに　なげだされるの？

ぼふっ！！！
うわお！　ちめたい！　なんかしろいものでいっぱい！
まっしろ！　ちめたい！　ふっかふかだにゃ？

うもぉー　ひどいにゃ！　ぼふぼふぼふ
でもぉー　にゃんか　たのしい・・・かも！

あたちがあるくと　しろいやつに　あしあとがつく
ちめたい！　ちめたい！
ぽちぽちぽち　しろいやつに　あしあとあしあと

ぶいぶいもんくいって　おかーちゃんのおひざにのりこむ
もー！　なでなでしてくんないと　ゆるしてやんない！

・・・ふふ　あんたは雪なんて初めてよね♪
文句言ってる割に　面白かったでしょ？

ひどいにゃ　ひどいにゃ！
でも　おかーちゃん　ぬくぬく～
だーいすき！

あたりまえなこと

あさおきる　カーチャンをおこして　メシださせる
ぽんぽんになったら　きれいきれいして　ぱとろーる

おひるは　ひなたでねんね　カーチャンが　もんくいう
おふとんよりも　おいら　ふかふかだい

とーちゃんかえってくる　ごちそう　ちょっとつまんで
かーちゃんのおひざで　ぐーるぐる

てつのさくにいれられて　まいにちへんなとこ
つれていかれて　いたいことされて
でも　おいら　あきらめなかった

まだまだ　みたことないもの　きいたことないこと
まだまだ　たべたことのないもの　いっぱいある

なのに　しらないままくたばっしまうのって
くやしいし　もったいないじゃないか

きせきは　かみさまがおこすんじゃないんだ
そう　おいらのこころがおこすんだ

あしたも　おなじことの　くりかえし
でも　かわらないことが　うれしい
そう　かわらないことが　しあわせ

あしたも　おやつ　だしてくれよな

あちあちあち・・・

てちてち　あちあちあち　あすふぁるっとってあっちいな
ふみふみ　やっぱりあっちぃいな　あんよやけどするにゃ

でもきょうはなんにゃ？あめざんざん
かぜもびゅーびゅー　これじゃおいら　とばさちまう

おなかすいたけど　いつものおばちゃん　きょうはこない
かおなじみのなかまも　きょうはみかけなかったにゃ

にんげんも　たいへんなんなんだろうな
でもさ　ねこもたいへんなんだよ

どうせさ　おいらたち　いちばんさいごなんだにゃ
んでも　いきてることは　わすれてほしくないにゃ

さーて　いつにゃんこがすくわれるのかにゃ
にゃんこは　きがながいからにゃ　しばらくはまってるにゃ

てちてち　いまはあすふぁるともひんやりしてるにゃ
ふみふみ　のんびりニンゲンをまってあげよう

にくきうも　ひんやりしてきたし　もうつよいようきゅうはやめてみよう
てちてち　さーて　くりすますには　ましになってること
せいぜいいのろう

なむなむなむ・・・なんにもほしくないよ
あのときのひびを　とりもどしたいだけにゃ・・・。

あのときのひびを　とりもどしたいだけにゃ・・

はなのあめ

さやさやさや　やさしいあきかぜ
どこかで　おさかなやいてるにおいと
ふんわり　あまいにおいがする

おかしいにゃ？　このにおい　しってるきがするけど
どうしてにゃ？　なんだか　おもいだせにゃい

ぽちぽちぽち　なにかがボクのせなかに　ふってくる
おつきさま　こんなにきれいだもん
じゃあ　これはなんんだろう　わかんにゃい

おかしいにゃ？　あまつぶじゃにゃい
これはにゃに？　つめのさきっぽで　それをさわってみる

あー　おもいだした！　きんもくせいだ！
そうだった　まいとし　こんなよるには
きんもくせいの　おはなのあめがふる

つきのあかりで　よーくみると
じめんは　きんもくせいの　うみ

おもいだした　おもいだした
あれは　ボクがちびちびのころにゃ
ままといっしょに　きんもくせいのあめのなかを　おさんぽしたんだ

これは　ままのにおい　これは　ままのおもいで
まま　どうしてるかにゃ　まま　げんきだよね

ぽちぽちぽち　きんもくせいのあめ
ぽちぽちぽち　きんもくせいのうみ

ぽちぽちぽち・・・

ぽちぽちぽち・・・

あと　ひゃくねん

どうしてだろうね
ただ　ごはんをたべてるだけなのに
どうしてだろうね
ただ　ひなたでごろごろしてるだけなのに

どうしてだろうね
こんなに　なみだがこぼれるのは

もう　ぜったいに　かえってこないって
もう　ぜったいに　だっこできなくなるって
こころを　かたくかたくして
まいにち　くちびるかみしめてたのに

もう　たぶんきっと　はしのむこうにいってしまうって
もう　たぶんきっと　すりすりしてはくれないだろうって
こころを　かたくかたくして
まいにち　じぶんにいいきかせてたのに

でも！　ちゃんともどってきてくれた！
でも！　まいばんいっしょにねんねしてくれる！
ちゃんと　おかえりって　いってくれる！

そこにいてくれるのが　うれしい
そこにいてくれるのが　かわいい
なんにもかわらないことが　こんなにしあわせ

あとひゃくねんくらい　いっしょにいようね☆
あとひゃくねんくらい　だっこしてあげるよ☆

たぶん　ずっと　きっと☆
たぶん　ずっと　きっと☆

しらないこえ

あのね　あのね
ぼく　ずっと　こうえん　とかってとこに
おねーちゃんと　いっしょにいたの
でもね　なんか　おおきなにんげんのてにつかまって
なにがなんだか　わかんにゃいうちに　ここにいたの

いままでいたところは　ごはんなんかなくって
いつも　おねーちゃんとくっついて　ねんねしてたの

はじめてここにきたときは　すっごいこあかった
でも　にんげん　やさちいのもいるんだね
ぼく　まいにち　ぽんぽんにゃ

おねーちゃん　おねーちゃん
はやく　ぼくのところにきてほしいにゃ
おかーちゃん　おかーちゃん
いまね　しらないけど　やさちいにんげんに
ごはんもらってるから　しんぱいしにゃいで

しらないけど　でも　やさちいっての　ぼくわかる
おねーちゃん　おねーちゃん
はやく　ぼくのところにきてほしいにゃ
いまね　しらないけど　やさちいにんげんに
なでなでしてもらってるの　あんしんするにゃ

ぼくね　おねーちゃんがくるまで　まってる
あのね　おねーちゃんがいないと　やにゃの

しらないこえ　でもこあくない
しらないこえ　だってやさちいもん

もー　ねんねしていい？
おねーちゃん　はやく　きてね・・・。

うぐるうぐるうぐるうぐる・・・・。

ささやかなねがい

どうして　こんなところにいるのか　わかんにゃい
あたちのせかいは　ごろんってしたら
あたまごっつん　しちゃうくらいの　せかい

どうして　ここからでらでないのか　わかんにゃい
ぼくのせかいは　しかくくてとうめいな　まどから
みわたせる　それだけの　せかい

いろんなおとがする　いろんなこえがきこえる
さいきん　あのこのこえ　きこえないな
さいきん　しらないこえ　きこえてくる

ニンゲン　ときどきとおりすぎる　でもだれもふりむかない
ニンゲン　ときどきごはんをくれる　でもちょっぴりだけ
いつまでここに　いるんだろう？
いつまでここに　いられるの？

あたまのすみっこにある　ままのにおい
あたまのすみこにのこってる　みうくのあじ

ねぇ　なでなでして？　ねぇ　だっこして？
とどかないよね　そんなことば・・・

ずっとまってるんだ　このどあがあいて　しらないせかいをみることを
ずっとまっているの　このせかいから　つれだしてくれることを

そのひがくることを　しんじて　いまはねんねしよう
そのひがくるまで　ままのこと　おもいかえしていよう

人間、良い事を教えて挙げよう。
猫はね、人間の言葉　全部分かっているんだよ。
だから、余計なことは口にしないで。　無言で処分しなさい。
そうしたら、永遠に後悔し続ける　呪いを掛けてあげる。
永遠にね。嬉しいでしょ？　ふふふ♪

けはい

すんすんすん　かぜのなかに　あのにおいがする
ふわふわふわ　かぜのなかで　きたかぜこぞうがわらってるにゃ

ぶわーっとかぜがふくと　きれいなはっぱが　ぱらぱらぱら
おひげからしっぽまでが　なんだかしらにゃいけど　ぶるぶるするにゃ

あー　やだやだやだ　ちめたいきせつが　やってくるにゃ
あー　はやくはやく　　ちめたいにくきう　　あっためなきゃ

ままぁ　ままぁ　はやくおこただしてよ　ねえ
ぱぱぁ　ぱぱぁ　じゃなきゃはやく　だっこしてよ　ねぇ

くしくしくし　ひなたぼっこしなきゃ　かぜひいちゃうにゃ
すりすりすり　だからはやく　にゃんとかしてよ

んー　ままのおひざ　あったかいにゃ
んー　ぱぱのおなか　もふもふにゃ

きたかぜこぞう　あっちいけ　ぽい
こがらし　こがらし　あっちいけ　ぽい

でもにゃ　でもにゃ
こうやって　ふゆがくるんだにゃ
でもにゃ　でもにゃ
そうやって　はるもくるんだにゃ

きたかぜこぞう　あっちいけ　ぽい
こがらし　こがらし　あっちいけ　ぽい

つばさ・３

なんでこんなことに　なっちゃったんだろう？
はじめてあったときは　やさしそうなニンゲンにみえたのに

なんでこんなこと　されるのかな？
いまじゃ　ほかのなによりも　こあいこあい

あのこは　げんきでやんちゃな　くろぶちくん
このこは　おっとりまいペーすな　まっくろさん
それにあいつは　いじっぱりだけど　すぐにぐるぐるいっちゃう　ちゃとらちゃん

はじめて　このおうちにつれてこられたとき
なんだか　いやなにおいが　ぷんぷんしてた
いきなり　くびねっこつまれて　ゆかにごっつん！　ってなげられた
それから　だっておといれないもん　しかたがなくってやっちゃったら
おみずのなかに　つっこまれて　いしきがきえちゃった

だんだん　なかまがへっていく　だんだん　いやなにおいが　つよくなっていく
ようやく　このニンゲンが　ほんとうはニンゲンじゃないことが　わかってきた

でもでも　もうおそい　はやくここから　にげなきゃ
でもでも　きっとまた　べつのにゃんこを　つれてきて
ぜったい　おんなじこと　するから　だったら
ここにいて　どんなめにあっても　がまんがまん

そうすれば　ひとりでも　このヘンタイに　いじめられなくてすむもん
そうすれば　たとえぼくが　ここのよから　いなくなっても
くるしむこが　ひとりでも　へってくれるから・・・

ごめんね　辛かったね　さぁおいで　ここに来れば
痛みも苦しみも　みんな消えてなくなるよ
汚れちゃった体も　ふんわりふかふかになって
暖かい所で　ねんねしてね

神様はきっと　君たちみんなに　純白の大きな翼をくれるよ
そうして　君たちみんなは　天使になるんだよ
そうして　君たちを愛してくれる人間のところへ
神様がきっと　導いてくれるから

今は　お休みね　私たちの　小さな天使たち・・・

広島仔猫虐待事件に捧げる。

やくそく

忘れることなんて　ありえない
どうして君たちが　橋を渡らなければいけなくなったのか

忘れられるはずなんて　ある訳ないよ
どうして君たちが　お星さまになってしまったのか

君たちは　愛されるために　この世に産まれた
君たちは　私たちに　限りない癒しを与えるために　この世に産まれた

確かにね　この国は　どこかオカシいのかもしれない
確かだよ　この国には　人の皮を被った　飢えた猛獣がいることは

過去は変えられない　どんなに悔やんでも
過去は変わらない　そんな事分かってるよ
だから　もう泣かないよ　もうそんな時間は終わった
だから　もうこんな思いを　繰り返さないようにするんだ

二度とね
二度と・・・。

私たちは　君たちから見たら　頼りないかもしれない
私たちは　一人じゃ何にもできないものね

変えられるのは　未来　君たちが安心して　還ってこられる世界
変えるのは　私たちしか　いないんだよ　情けないね

でも　約束するよ　次に君たちが還ってきたら
そう　約束する　心から愛してあげるって

だから　今は天使の翼の下で　安心してお休み
そして　そこで私たちを見張っててよ　ちゃんと約束を守るように

過去は変えられない　どんなに悔やんでも
過去は変わらない　そんな事分かってるよ

だから　もう泣かないよ　もうそんな時間は終わった
だから　もうこんな思いを　繰り返さないようにするんだ

二度とね
二度と・・・！！

逝ってしまった全てのコたちへ・・・。

おなじうたを

とかいのうすぐもりのそら　ふんわりしたくもがういてる
あたしはいつもの　おきいりのさんぽみちを
しっぽを　ぴんとたてて　てちてちあるいてる
おそらには　まんげつ
あのときとおなじ　まんげつ

ボクはままのむねに　だっこされて
べらんだから　おそらをみる
いつかいっしょに　さくらをみにいったよね
おはなのすきまから　まんげつ
あのときとおなじ　まんげつ

おおきななみがやってきて　なんにもなくなったけど
しってるおじちゃんや　だいすきなおばーちゃんも　かえってきた
ていぼうの　てっぺんにのぼって　うみをみつめる
ゆうなぎのなみにうつる　まんげつ
あのときとおなじ　まんげつ

もうそろそろ　しもがおりるきせつがきたわ
わたしは　おかあさんがねむったのを　たしかめてから
そっとあみどをあけて　えいえんのねぐらを　さがしにいくの
わたしがそこまでいくの　まってるのね　まんげつ
あのときとおなじ　まんげつ

まだまだおいらが　にゃんこだってしらなかったころ
いつもひとりぼっちで　こうえんにいた
やさしいひとだ　とおもってたのに　こんなことされるなんて
きんいろおめめをとじて　おもいだしてる　まんげつ
あのときとおなじ　まんげつ

きおくになかには　いつもおつきさまがいる
どこにいっても　まいごになっても　いつもおつきさまだけが
ぼくたちみんなを　おそらからみまもってくれてる
あたしたちはみんな　おなじほしのうえから　おつきさまをみている

そう　いつかはそこにいくのだから
でも　そこはにゃんこたちだけに　つくられたせかい

さぁ　おなじうたを　うたおう
くるしくても　うれしくても　こごえてしまいそうでも　みんないきてるもの
たのしくても　かなしくても　どんなにこどくでも　ほんとはひとりじゃないもん

さぁ　おなじうたを　うたおう
さぁ　おなじうたを　うたおう
あのひみたのと　おなじまんげつに
あのときとおなじ　まんげつにむけて

さぁ　おなじうたを　うたおう
さぁ　おなじうたを　うたおう

すべてのなかまたちが　さいわいであるように
すべてのなかまたちが　あいされるように・・・

おなじ　うたを・・・

ずっと　ずっと

なんだかわかんないけど　ままがあさからそわそわしてる
どうしてかわかんないけど　ぱぱがいつもよりはやくかえってきた

にゃこにはわかんないけど　きょうはとくべつなひなんだって
にゃこにはかんけいないけど　でもなんかすぺしゃるごはん

てーぶるにおおきなけーき　ちゃんとあたちのぶん　おさらにくれたの
てーぶるにいろんなたべもの　ちゃんとぼくのぶんも　だしてくれたにゃ

みーんなにこにこしてる　おいらもうれしい
みーんななでなでしてくれる　あたりまえよね　あたしがいちばんだもの

いみはわからないけど　きょうはくりすますなんだって
ままは　そとねこさんにも　すぺしゃるごはん
ぱぱは　ちょっとのみすぎ　でもふみふみしてもおこんにゃい

そういえば　きょねんもそうだったね
そういえば　たいへんなことがいっぱいあったけど
こうやって　うきうきするひを　みんなですごせるなんて

かみさまって　ほんとうにいるのかにゃ？

ねぇかみさま？
こんやだけでいいの　すべてのにゃんこが
ねぇかみさま？
こんやだけはとくべつに　すべてのにゃんこが

だーいすきなヒトと　だーいすきなばしょで
あったかいじかんがすごせますように　　おねがいするにゃ

ずっと　ずっと　きょうだけは
ずっと　ずっと　えいえんに

すべてのにゃんこに　めりーくりすます！
いみわかんにゃいけど　めりーくりすます！

ずっと　ずっと
ずっと　ずっと・・・。

わすれもの

今朝も寒い　こんなに冷え込むなんて　気象庁どうなってんの？
しかたないから　最終手段のマフラーをタンスの中から引き出したの
お正月ももうおしまい　今日から現実が始まる
ぶつぶつ文句を重ねながら　ふと気が付いた

マフラーについている　猫の抜け毛
あ、これはあのこだ　もう今はいなくなったあのこの抜け毛
茶色と黒のだんだら模様で　根元が白い
もう　あのこのお洋服の柄　そのまんま

いやぁね　生きてた頃は　これがうっとおしくて
だって　同僚にいつも　猫毛まるけって　揶揄されてたもの
だから　出かける前は　しつこくブラシで猫毛を取っていたのに

あの朝　元気に行ってらっしゃいをしてくれたのに
あたしが帰ってくると　そのまま橋を渡ってしまった後だった
それからいろいろあったけど　あのこのことを忘れることは
一瞬たりともなかった

あんたって　気位が高くって　ご機嫌がいいときじゃないと
撫でることもできない　わがままクイーン
ブラッシングも大嫌いで　いつも怒ってたわね

だけど　逝ってしまったら　あのこの思い出って　これぐらいしかないの
だから　以前なら捨てていた　たった一本の抜け毛さえ　愛おしい
どうして　もっと　残しておかなかったのかしら？

そうね　新しいおちびさんを迎えよう
そうよ　誤魔化すためじゃないの

猫はすべて　愛されるためだけの生き物
猫はすべて　可愛がられる生き物
猫はすべて　甘やかされる生き物

愛って　自分に返ってくるのよ

愛って　際限なく振りまくものなの

これはあのこが　生きてた証
だからあたしは　大事にとっておくわ

いつかあのこが　還ってきたときの為に
いつかあのこが　還ってきたときの為に

ねぇ？　My baby?

ねこなんてなんのやくにもたちゃしねぇ

昔から云われてることわざに　「猫の手も借りたい」ってあるけどさ
それって　なんの役にもたたねぇ　猫の力も借りたいってぇ意味なんだろね

そりゃさ　昔はネズミをとるから　大事にされてたさ
でも　そんなお役目から　解放された猫どもは
寝てるか　喰ってるか　そのどっちかでしょ

けどさ　考えて見なよ
そうやって　ふかふか眠ってる姿は　ニンゲン幸せな気分にさせるしさ
そうやって　メシ喰って　ごろちょろしてる姿は　見ているだけで幸せにならないかい？

確かに　猫ってなーんにも考えてなんかいやしないだろうね
確かに　居たところでなーんの役に立つでもなし

でも　云えることはね　猫は人間を愛してるんだよ
でも　それがむくわれるとかどうとか　そんなこたぁ考えちゃいない

だからニンゲンは　そこに意味を見出そうとして
だからニンゲンは　猫を溺愛する

あんた　寂しいニンゲンだね　だって
無償の愛っての　しらねーんだろ？
あんた　愛ってさ　与えられるだけの物って　思ってないかい？
ちょいとちがうね　愛って自分が払った以上のものが帰ってくんだよ

あんたが　逝った時　誰が泣いてくれるんだろうね
あんたは　誰かが逝ったとき　涙を流してあげられるのかい？

そんな人生　あたしゃごめんだ　そんな人生　例えようもなく寂しいじゃないか
一つ教えといたあげるよ　命の意味をさ

その灯が消えたとき　あんたの亡骸に涙してくれんのは
あんたが生きてた時　精一杯の愛を与えた人だけなんだってことをね

猫なんてなんの役にもたちゃしねぇ
けれどなによりも　ニンゲンを愛してるんだよ

いつか逝くきみのために

きみがたいちょうをくずしてること　ずっとまえからしってたよ
きみがあんまりごはんをたべなくなったことも　きづいてた

でも　だっこするといつもごきげんで
だって　あたしのうでのなかで　おはなししてくれるから
それでいいと　おもってたの

きみはねこで　あたしはにんげん
だから　ことばなんてつうじないよね
だけど　きみはあのときから　からだがつらいこと
ひっしに　うったえてたんだね

どくたーは　にがわらいをしながら　とおまわしにあたしをせめてる
けど　こんなにびょーいんきらいなきみを　つれていくのって
そのほうが　きみにいやなおもいをさせてるみたいで

けど　あたしむねをはっていえるわ
だって　あたしはきみのことを　いちばんあいしてたもの

いつかはあたしのところから　はしのむこうにいってしまうのね
それがいつなのかはわからないけど　でも
あたし　こうかいはしたくないの

けんさのたびに　おもわしくないすうちがでる
そのたびに　きみのほそいうでから　さいけつされているのが
あたしにはつらくて　ずっとあやまってたの

ごめんね　こんなになるまでほうちしといて
ごめんね　きみがくるしんでいるの　わかってあげてなくって

それなのにきみは　あたしにたからもののような
それなのにきみは　えいえんにかがやくおもいでをくれたのね

いのちはいつかはきえるもの　だけど
そのいのちのきらめきを　あたしはずっとだきしめていくわ

いつかははしをこえてしまう　わかっているけど
あたしのうでのなかで　ぐるぐるいってるきみが
ほんとうに　いとおしいの

そのひがくるまで　いっしょにいようね

そのひがくるまで　だきしめてあげる

そのひがくるまで　いっしょにいようね
そのひがくるまで　だきしめてあげる・・・

我が儘お嬢ちゃんへ。

光の彼方

あの日あの時　海も山も　街も村も
あの日あの時　抗いようのない　大きな力に呑まれ

混沌の世界へと　引きずり去られ
残された者たちの　時の流れさえも　道連れにして逝った

あたりまえだと　信じていた世界
これが普通だと　軽んじていた世界

いまは　空間ごと切りとられ　凍てついている

忘れられない　忘れてはいけない
なにもかも　あれもこれも　どれもみんな
忘れられない　忘れてはいけない
だからこそ　今は崩れてしまった　瓦礫でさえも

生き続ける　記憶の中に　歴史の中に

それは　残酷かもしれない
これは　暴力かもしれない

だけど　時間は動いている　時間は進んでいる
だから　春がきて　夏がきて　もう前に進むしかない

ひとは　歩き続けることを宿命とされた　生き物
ひとは　振り返ることはできても　後戻りはできない

行こうよ　痛くても　苦しくても　寂しくても
踏み出そうよ　不安でも　孤独でも　朝に向かって

でも　ひとりじゃない　手を繋いで
そう　ひとりじゃないの　これからずっと

光の彼方へと　還ってきた者たちが待つ場所へと
歩いて行こう　歩いて行こう　歩いて行こう

奔らなくていい　ゆっくりと　ゆっくりと
歩いて行こう　歩いて行こう　歩いて行こう・・・

祈りを込めて　浅川拝

番外　おっちゃんとねこ

桜が散り始めていた。まるで、晴れ渡った空に吸い込まれていくようだった。
　おっちゃんは公園のベンチで、昼間っからカップ酒をちびりちびりとやっていた。
　早いもんだ。こないだ満開になったかと思ったら、もう終わっちまう。そうして葉桜になっちまえば、花見も終いだからな。そしたらこの公園も棲みにくくなっちまう。そうなっちまったら、メシのためになんとかせんとあかんからなぁ・・・。

　おっちゃんは今、どうしてここにいるのか、何でそんな事になっちまったのか、思い出したくなかったし、もう忘れた。先の事だって、メシの心配以外にあれこれ考えることをあきらめていた。
　初めは、他の奴らみたいに空き缶を集めてりゃなんとかなる、と考えていた。でも、もう縄張りみたいなものが出来上がっていて、入り込む隙間もなかった。しかたがないから、駅やコンビニのごみ箱を漁り雑誌を拾い集めて何とかやっていた。この上、公園にくる人間が少なくなっちまうと、残飯すら期待できなくなる・・・。

　目の前でねこが遊んでいた。舞い散る花びらを獲物にして、狙いをつけるとお尻をふりふりっ、としてジャンプする。で、両手で花びらをキャッチして、でも次の瞬間にはもう他の獲物を狙っている。
　上手いもんだ。ねこっていうやつぁ、全身がバネみてえなんだなぁ。後ろから見ていると、春の日差しをあびて、毛先が透けているようだ。
「なうっ！（ねー、おっちゃん）」
「どうした、なんか喰うか？」
「んにゃ？（これってなーに？雪みたいだけど溶けちゃわないよ？）」
「そらそうだ。それは桜ってぇんだよ。な？雪みたいに、てってが冷たくねーだろ？」
「にゃう。（そか、だから消えないんだ）」

　猫って生き物は尻尾を見れば、今何を考えているのか大体わかる。ねこはくるん、とこっちを向いてその尻尾をぴんっ！と立てて、ぷるぷるっとふるわせながらてとてとと歩いてきた。
　このねこは、今年の春先、まだ雪が舞い散るころから見かけるようになり、時々残ったメシを与えているうちに、おっちゃんといっしょに暮らすようになっていた。
　キジトラの鉢割れの美人ちゃん。なるべくいいモンを与えているからなのか、毛なみがぴかぴかしている。多分まだまだ子供なんだろうけど、人懐っこくって、ここに棲んでいる野良たちとも喧嘩はしない。白いてってとあんよが可愛い。ただおっちゃんはこの美人ちゃんに名前を付けてはいなかった。
　自分は流れ者だ。この先どこに行くのかわかりゃしねーし、どこで仏さんになっちまうかもわかんねーしな。こんだけの器量よしだ。自分が消えちまっても、きっと誰かがかわいがってくれっさ。

　ねこはぴょんとおっちゃんの膝に飛び乗って、
「にゃーう？（なんか美味しいものあるの？）」
「ああ。ほら。」エビフライの尻尾を差し出した。
「うきゃっ！（わーい、これ大好きー）」おっちゃんの目じりが下がる。
　喰い終わるのを待ってから、拾った赤いリボンで首輪をして、それにこれも拾った紐で作ったリードをつけてベンチの手すりにしっかりと縛りつけた。
「悪りぃな、ちょっと出かけてくらぁ。」　ねこは、尻尾をぱったん、ぱったんとして、
「うにゃぁ？（またおしっこいくの？ニンゲンって面倒くさいなー）」
「すぐに帰ってくるよ。いいコだな。いつもちゃんと待っててくれるもんな。」
　ねこはぷいっとして、ゆっくりと毛づくろいを始めた。

ここの公園の便所はかなり立派だった。掃除も行き届いているし、なによりトイレットペーパーがちゃんと置いてある。おっちゃんは時々それを失敬していたから、いつも感謝していた。
ここから流れていった先で、これが問題になるんだよなぁ・・・。
便所を出ると、そこで「じーさん」に逢った。お互い名前なんか知りゃぁしない。それにこのじーさんはこの公園の「ヌシ」だった。
「じーさんトコの猫、元気かい？」
「ああ、わしよりも利口でな。時々すずめなんか捕って喰ってるよ。」
「オレんとこのはまだそんなこたぁ、しねぇなぁ。」
「お前さんが教えてやりゃぁいいんだよ。」
おっちゃんが会話をする人間は、じーさんだけだった。ねこにリードを付けるのを教えてくれたのもこのじーさんだ。ただ、ねこの話以外はしていなかった。
リードを付ける理由。それは、
「保健所の連中が、野良だからって捕まえて行っちまうんだよ。」って云っていたが、本当の理由は違う、とおっちゃんは思っていた。
おっちゃん達は、どうしたってヤサを空けて、採集に行かなきゃならない。それで帰って来たときに猫が居なくなっていたら、多分じーさんはお陀仏しちまう。
じゃ、自分は？
やだやだ。考えたくない・・・。

ベンチにもどってくると、ねこはふくふくと眠っていた。やれやれ、しあわせそうだなぁ。隣に座って撫でてやると、そのままぐるぐる云い始めた。それからおっちゃんを見上げて頭突きをしてきた。
ゆっくりとしたリズムで尻尾をふって
「んみゃぁ（おかえりー）」おっちゃんは首輪を外してやって腕に抱きかかえた。
その時、急に強い風が吹いた。
桜がいっきに舞い散る。花の嵐だ。それを見ていて、ふと思い出した。日本人がなぜ桜が好きなのかを。

咲き誇り、美しさを競い、そして潔くこの世に別れを告げる。その一瞬の美しさを日本人は愛した。

・・・だよなぁ。うじうじしててもしかたねぇや。どうせ生きていたっていい事なんてありゃしない。このまんまおさらばしちまえば、もう何の心配も、いりゃぁしねぇ・・・。

がぶっ！ いきなり腕を噛まれた。
「痛ってぇなぁっ！」思わず大声でねこを怒鳴った。
「ぎゃうぅぅぅぅぅ！！！（おっちゃんの馬鹿！）」
「なんだよぉ、なんにもしてねぇじゃないかよぉ！」
「にゃぁあにゃぁあにゃぁあっっ！（あたし、おっちゃんの気持ち、全部分かるもん！なにくだんない事、考えてるの！）」
尻尾がいつもの２倍半ぐらいにぶっとくなってて、おまけにめったにそんな事はしないのに、爪を出してしがみついてきた。

「わ、悪かったよ・・・。」ちょっと強めに抱きしめる。
「ううっ・・・。（ほんとに？ほんとにそう思ってるよね？）」
「・・・名前、付けてやるよ。」 優しく撫でてやる
「今日からおまえはさくらだ。」

あんなに儚い桜じゃなんかない。永遠に咲き誇る、日本一のさくらだ。
なっ？そうだろ？

ただいま！

んーと　ほんとはもっと遊びたかったんだけど
かみさまが　ままのところに　いきなさいって

ぼくは　あたしは　生粋のにゃんこだったけど
なんか　こんどは　姿がちがうんだよね

けど　だいすきなままのおなかのなかで　のびのーび
あったかくって　気持ちいい　ぐるぐるしちゃうよ

ままがかわいがってくれたこと　おぼえてるよ
ままはいつもやさしくて　いい匂いがして
だいすきだったよ　ほんとに　ほんと
けど　きゅうにねむくなって　きがついたらここにいて

あのときのこと　ゆるしてね　ごめん　まま
けどでも　こんどは　姿かたちはかわったけど
ままのところに　還ってきたんだもん

ままがおなかをさすって　にこにこしてるの
すっごく　うれしいな　にゃはは！
今度は　まえよりも　いっぱいめいわくかけるけど
よろしくおねがいします！　（ぺこり）

もともとにゃんこだから　すっごい手間がかかるとおもうけど
ままがだっこしてくれるの　たのしみだよ
うれしい　たのしい　だいすき
今度は　もっともっとずっと　いっしょにいられるから

それまで　ままは　ままのこと　大事にしてね
それまで　ぱぱも　ままのこと　大事にしてね

うみゅー　ぐるぐる☆

作者注・・・これを書いた後に「ふわふわの国」を知りました。泣かない自信があればっ！検索してみてね。

はしのかなた

いかないで　いかないで　まいちるどれん
いつまでも　あたしのおひざにいて
いかないで　いかないで　まいすいーとはーつ
いつまでも　こどものままでいていいの

あめふりなよる　おまえはいきなり　あらわれた
ふわふわのけなみ　だきしめるとすぐ　ぐるぐるして
あたしがどんなにこどくだったのか　おしえてくれた

わからない　わからない　まいりるべいび
いつまでも　あたしとねんねして
わからない　わからない　まいぷりてぃべび
にじのはしを　わたらないでほしいのよ

かなしいときも　おまえはあたしを　あわれんで
やわらかなけなみが　あったかで　あんしんしたの
あたしのなみだのすべてをそう　しっていたのに

そう　でもはしのむこうで　あたしをまってくれてるのなら
そう　あさひをあびてほほえむわ
そう　そこであんたが　あたしをまっているもの

いかないで　いかないで　まいちるどれん
いつまでも　あたしのおひざにいて
いかないで　いかないで　まいすいーとはーつ
いつまでも　こどものままでいていいの

わからない　わからない　まいりるべいび
いつまでも　あたしとねんねして
わからない　わからない　まいぷりてぃべび
にじのはしを　わたらないでほしいのよ

いかないで　いかないで・・・

わからない　わからない・・・

やがて　還ってくる

あんなに愛していて　だからこそ　逝ってしまったことが
どんなに哀しかったのか　たぶん　誰にもわからない

命はめぐる　さまざまなかたちになって
命は光のかけら　どんなかたちになっても

ようやく　きみがままのところに　還ってきたのに
ままはまだ　じゅんびができていなかったから
あっというまに　お別れすることに　なっちゃったね

でもね　命はめぐる　どこにいったとしても
そうよ　命は形をかえ　別のところに還っていく

ままは　うけとめてあげられなかったけど　いきなさいな
ままが　こころから大事におもっているひとに　笑顔を分けてあげて？

とっても泣き虫なところ　よくにてる
きっと　だれよりも　きみのこと　あいしてくれる

てんしがうたっている　きこえる？
てんしはしっているの　きみがどんなにいいコなのか

やがてやがて　還ってくる　命は神様に愛された
エネルギーのかたまり　だから　誰からもあいされてしかるべきそんざい
あおいあおいほしに　かみさまがあたえた　ちいさな奇跡
あおいあおいほしに　かみさまにおくられた　最高の奇跡

さぁ　いきなさいな　わたしのいのちのかけら
さぁ　そこでみんなの　さいわいになっておくれ

ままは　とおくからみている　ほほえみながら
ままは　ここからみている　ちょっぴり泣きながら

そうしてそうして　やがて還ってくる
形を変え　姿を変え　最愛のひとのもとに
やがてやがて　還ってくる
やがてやがて　還ってくる
あの日の喜びとともに　還ってくる

やがてやがて　やがてやがて・・・

過保護なまま

朝めがさめる　瞳はとじたままで　いつもの場所をてでさぐる
そこには　いつもは毛玉さんがいるんだけど　やっぱりいない

このクセ　いつになったら　やめられんのかねぇ
わたしのかわいい毛玉さんは　もうはしの彼方であそんでる

そのうち　あの背中につばさをもらって　ねこ天使になるのだろうけど
あんなおおぼけムスメに　そんなお仕事できるのかいね？

あのちっこい脳みその中には「喰う、寝る、遊ぶ」いがいなんて
はいってるはずないし　神様の云うことなんて　ききゃしないだろうなぁ

おやとして　もうちょっとマシに育ててやりゃぁ　よかったなぁ
でもおまえさんのことだから　きっと　おともだち沢山いるよね

眠るまえ　おまえさんがねんねしてた場所　さぐってみる
いつもそこで　ぐるぐるしてたね　だけどいまはただお布団があるだけ

いるだけで　うれしかった　いるだけで　たのしかった
早く修行して　りっぱな猫天使になっておくれ

しかし　キャットタワーから落っこちるような子だったからねぇ
ああ　おやとしてきになるよ　ほんとに飛べるようになるのかってね
しんぱいだ　しんぱいだ・・・

天使の翼

病院に行くたびに　嫌な数値を見せられる
血中に溢れかえる　ピルビリン　悪化していくクレアチニン

あんなにキャリーバッグいやがってたのに　もう平気になっちゃったの？

わかっているのよ　このこがそんなに長くは生きられないって
あたしは覚悟を決めている　その日がいつになろうとも

でも　ねこってがんばりやさんなのね
あんなに身体が辛いのに　でも
押入れの上の方に飛び込むの

でもそれさえ無理になってきて　いまはあたしたちのベッドに登るのが
せいいっぱいなのね　いいの　わかるから　そこにいていいの

あたしはあんたのこと　本当に愛してた
ちょっと我が儘なところも　新参者ものをうけいれないところも
あたしは　しかたがないなぁ　ってわらってゆるしてあげてた

あの日は暑かったのね　でもそんなこと　おぼえてやしない
容体が急変して　なすすべもないまま
あんたは朝日を追いかけて　飛び立った

十分　生きたよね　じゃなかったらあたし　罪悪感に潰れてしまう
できることのすべてを　捧げてきたつもりなの

それでも云いたいことがあるならば　夢にでてきて？
あのころとおなじように　抱っこしてあげるから・・・

こもりうた

おやすみ　私の　かわいい子供たち
おやすみ　今は何も　怖くないわ

きみたちがいるから　ままは強くなれる
きみたちの笑顔が　ままのささえなのよ

さみしさに　つぶされそうな時も
　きみたちが　そばにいてくれた
かなしさに　おぼれそうになっても
　きみたちのぬくもり全てが　ままの力

さぁ　まだ見ぬ弟へ　力をあたえてね
さぁ　それからいっしょに　ごろごろしようね

おやすみ　私の毛むくじゃらな　子供たち
おやすみ　きっと逢える　ままのべび

おやすみ　おやすみ　ぱぱといっしょに
おやすみ　おやすみ　みんなおにーちゃんになるんだよ

かみさま　全ての幸いを　このこたちに
かみさま　全てのいのちが　ゆっくり眠れますように

have a good night・・・

泣き虫で優しすぎるあなたに・・・。

まもりたいもの

のこされたもの
ひざし　かぜ　しずかになったまいにち

きえたもの
そうおん

うばわれたもの
あおぞら　ゆうやけ　つきのひかり　ほしのまたたき
うみのにおい　とびかっていたことりたち
あさひにそまるやまかげ
よるをいろどる　はなやかなまちのかがやき
なつをつげる　はなびのしずく
それから　それから・・・

なくしたものばかりが　おおくて
じかんだけが　かけあしで　すぎていく

まもりたいもの
ささやかな　はなばな　やわらかな　けだまたち
まもりたいもの
こころやすらぐじかん　きみたちの　ぬくもり

かわらないもの
ふっかりとおひさまをあびた　おふとん
かわらないもの
それはきっと　いのりをささげる　わたしのこころ

さてさて　うなぎくん

おっとぉ　うっかりしてたよ　きょうはうなぎをかわなきゃ
あのこもこのこも　みんなだいすき　うなぎくん

あっちのうなぎには　おかしらついてたけど
こっちのうなぎは　ちょいとちがうんだにゃ

ほんとはね　じゅーいさんがうなぎのあたまは　だめだって
こぼねがいっぱいだから　たべちゃ　だめだって
だったらいいにゃ　ふっくらおいちいところ　おねだりしちゃうのにゃ

まぐろもしゃけも　だいすきだったね　ちゃんとおぼえてる
でもでも　うなぎくんだけは　とびっきりだいすきだったね

さてさてうなぎくん　ことしはうしのひが　もういっかいあるんだよ
さてさてうなぎくん　そりゃにんげんもだけど　もういっかいくらい
さてさてうなぎくん　かわいいにゃんこに　たべさせてあげたいんだ

いきてていちばんたのしいのは　おいしいものを
いきてていちばんうれしいのは　みんなでたべることにゃ

うなぎくんにはさいなんだけどさ　ちゃあんとごちそうさまって
うなぎくんにきちんとかんしゃして　ちゃあんといただきましたって

うなぎくんがあたえてくれた　きみのいのちに
うなぎくんにかんしゃをこめて
ありがとう　ありがとう　ことしもありがとう・・・

やがて　てんしになる

まだまだ　がんばってほしいけど
こんなとこで　くたばっちゃったら　こまるけど
まぁいいや　いまはゆっくり　ねんねしてね

こんなにみんなが　きみのこと　きにしてる
だからこそ　もっとげんきになってほしいけど
しあわせそうにねんねしてる　きみをみていると
ニンゲンのわがままを　おしつけてるようで　もうしわけなくなるよ

やがて　てんしになる　めがさめたら　きっとはしのかなたで
やがて　てんしになる　これはうまれたときに　よやくずみ

きみはかしこいこだから　きゅうにせなかに　はねがはえても
よゆうしゃくしゃく　ゆったりはばたいて　ひかりのかなたへと
なんのまよいもなく　とんでいけちゃうんだな　まいったね

やがて　てんしになる　いまはここでゲボクをまくらにして
やがて　てんしになる　ぐっすりおやすみね
やがて　てんしになる　ずっとそばにいてくれて　うれしいよ
やがて　てんしになる　やがて・・・

いまはおやすみ

おやすみ　おやすみ　　いまはおやすみ
つかれたからだをよこたえて　ゆっくりとねんねしな
おやすみ　おやすみ　　いまはおやすみ
だってめがさめたら　あたらしいぼうけんがまっているもの

かみさまのやさしさ　それはいやなことから　じゅんばんに
かみさまのやさしさは　それからわすれるように　してくれたこと

みんなみんな　きみのいきざまに　こころうばわれてる
みんなみんな　きみのことを　じぶんのかぞくみたいにおうえんしてくれた

おやすみ　おやすみ　　いまはおやすみ
きみのだいすきなコも　きっとほほえんでくれる
おやすみ　おやすみ　　いまはおやすみ
きみはきっと　またここへ　かえってくるよね

そのひがくるまで　そのときがくるまで
ゲボクはきみにまけないくらいに　げんきになってるよ
そのひがきたら　そのときがきたら
きっとちびっこなねこえんじぇるが　まどをたたいてくれる

まいったな　おいらそんなにりっぱじゃねーぜ？
こんなおいらのこと　だいじにだいじにしてくれて
なんていったらいいのか　わかんねーじゃねーか
ちゃんとおれいにいくからさ　ねぇ？

おやすみ　おやすみ　　いまはおやすみ
つかれたからだをよこたえて　ゆっくりとねんねしな
おやすみ　おやすみ　　いまはおやすみ
ゲボクもちょっとくたびれた　さてと
けどきっと　きみのゆめをみるんだろうね
おやすみ　またあうひまで・・・

きみがいないひび

そりゃね　いつかは　平気になるんだけど　たぶん
きみが生きていたひびが　　ゲボクはおのれに
問ただしくなるんだよ　どうしたってさ

命は　奇跡的な輝き　それをきみが教えてくれた
その命を　長らえようとするのは　罪なのかもしれない
でも　わたしは　その輝きが　たまらなく愛おしくって・・・。

ニンゲンの傲慢は　どこまで許されるのだろう
でもね　愛してた　これだけは神様に伝えて？

それでどんな罰を受けようとも　わたしは平気だよ
それよか　きみが今　どうなっているかのほうが　気にかかる

きみがいなくなって　わたしはどうすればいいのかが　わからない
けれどたぶん　わたしの知らないところで　きみは天使になるんだよね

きみが天使になれば　ウチのコたちも安心だ
きみの云うがままに　したがっていれば　それでＯＫ！

ゲボクは　まぁ　それなりにがんばるさ
それよか　ウチの可愛い子供たちが　天使になれるよう
どうか　導いてやっておくれ

ねぇ？　きみ？

まぼろしにゃこ

えっ？　　キミはだれ？
ウチのコは　ここでねんねしてるのに　にゃんこが
とてとて　あるいている　夜明け前のお布団の上

ふわふわしてて　でも知ってるような気がする
もしかして　あのこかな？　だったら逢いたいけど
でもちょっと　かなしいな　だってお星さまになったはずなのに
まだまだお空に行けずに　迷子になってるのかな？

いやいやそんなことはない　あんなに賢いコだったもの
今ごろは　猫神様になっているはずだもの

ねぇ？　もしかして様子を見に来たの？
いつもオカーチャンが眠るまで　そばにいてくれたよね
ぐるぐる子守唄歌ってくれて　そういうときは
キミのほうが　保護者みたいだった

薄青い闇の中にてをのばし　触れてみようとしても
やっぱりだれもいない　けど　たしかに誰かの気配がする
心配しないで　オカーチャン元気だよ　ほらちびっこも
まだまだ寂しいけど　夢に見ちゃうけど　でもちょっぴり強くなったよ？

いやいやそんなことはない　本当はキミが恋しい
今でも忘れられない　キミの手触りと　あのまなざし

　オカーチャンって　ホント泣き虫だし　すぐ熱だすし
　でもちゃんと見てるから　自分を大事にするんだよ

とてとてとて　すとん　てってって　遠ざかって行く
懐かしい気配　聞こえるはずのない　鈴の音
腕の中のちびっこが　ぐるぐるいっている　間違いないよって

まぼろしにゃこ　まぼろしにゃこ　まぼろしにゃこ
あいにきてね　あいにきてね　あいにきてね

まぼろしにゃこ　まぼろしにゃこ　まぼろしにゃこ
あいにきてね　あいにきてね　あいにきてね

とてとてとて　とてとてとて　ちりちりちり　ちりちりちり・・・

わかっていても

あのひがいつだったのか　おもいだせない　おもいだしたくない
いつだって　きみはそこにいて　くろうはしたけど
かんがえてみれば　あたしたちがいきていくための
よすがだったのかもしれないね

やろうとおもったことの　はんぶんもできなかった
それなのに　きみはほんとうにやすらかで　やさしげで

あいしているのは　きみだけじゃないよ
あのこもこのこも　みんなみんな　かわいくってたまらない
けれど　ゲボクのこころは　とまってしまっているのかもね

ひまわりをみればあのひを　つきをみればそのときの
よろこびもたのしさも　いちびょうまえのようにおもいだせる

いきものはすべて　まええとしかすすめないようになっている
だからゲボクどもも　つぎのあさにふみださなきゃいけないのに
ただただかなしみにとらわれてて　えいえんのよるにいるみたいだよ

きせつがかわる　でもこのなつは　えいえいんだもの
あいしてる　あいしてる　あいしてる・・・

さぁ　かれんだーをめくろう　ねぇ？
こおりついてしまったときを　あたらしいきせつにいくために

あいしてる　あいしてる　あいしてる　あいしてる
あいしてた・・・

むかえび

そうだ　そうだ　むかえびをたかなきゃ
そうね　そうね　もうそんなじきだねぇ

かーちゃんがいうには
「ほとけさんは　じくうをこえてとんでくるから　どこでもすきなとこに
かえってくるのさ」って

ぬけがらは　あっち　ままは　こっち
どっちにいこうかなやんでも　いきたいとこに　いけるんだってよ

それでも　まちがえることなく　かえってくるように
げんかんに　ともしびつけて　ごちそうそろえて　まってるよ

そうだ　そうだ　むかえびをたかなきゃ
そうね　そうね　もうそんなじきだねぇ

どこのおうちにも　ちいさなあかりがともる
どこのおうちでも　だいじなひとをまっている

そうだ　そうだ　むかえびをたかなきゃ
そうね　そうね　もうそんなじきだねぇ

そうだ　そうだ　きっときみたちは
きっと　きっと　いたずらっこのままだね

どこのおうちにも　ちいさなあかりがともる
どこのおうちでも　だいじなひとをまっている

そうだ　そうだ　そうね　そうね・・・

作者注・・・お盆の風習は地域によってかなり違います。でも、気持ちはみーんな同じですよね。

やがて　光のかなたへ

あのひ　あつかったことしか　おぼえてない
いつもとおなじように　あさのひかりをあびて
いつもとおなじように　くらすはずだった

ああ　あれはたいようじゃない
そう　わたしはいま　こころのおくまで　やかれている

せんそうってなに？　へいわってなに？
ただわかるのは　わたしのすべてが　やがてもえつきること

なにをしんじればいいの？　なににすがればいいの？
いままでよすがにしていたものは　すべて
このよにそんざいすら　していなかったの？

ああ　髪が焼ける　指先も一緒に燃えてしまう
ならば　私の魂も　全て燃え尽きてしまえばいい

うらみもかなしみも　なにものこらない
そう　すべてはあのひかりとともに　もえつきた

いたみもくるしみも　すべてうけいれるわ
だからおねがい　もうこんなことは　くりかえさないで

かみさま　わたしのいのちとひきかえに　やくそくしてください
かみさま　もうわたしのようなものを　つくらないことを・・・

核兵器の恐ろしさは、日本人以外は誰も知らないのかもしれないですね・・・。

拙者　橋を渡りて候

拙者　こちらの世界では新参者でござる
しかし現し世では　長らく生き申した

武家の生まれであり申すが　放蕩が過ぎた故
勘当され　浪人生活を続け　どこに士官もせず
気が付き申したらなば　こちらに流れており申した

こちらの御屋敷には　美しい姫君がおり申して
しかし　そのお姿を拝見するにつけ
それがしが捨ててしもうた　我が娘の姿を
ほんに申し訳ござらんが　重ねており申した

最早装束も打ち果て　武士の命たるものも
竹光にする他なく　ただただ　こちらの御屋敷に
無心をする　誠に卑しい身分であり申した

しかし奥方さまは　このような拙者に　お心を砕き
ご当主に至っては　拙者の邪魔をいたす若造を
片端から　領地から排除頂き申した

長いようで短き猫生　いやしかし
末期の水をとっていただき　本来ならば　武士として
切腹するべきであろうが　このような拙者を
手厚く葬りくださり　恭悦至極にて候

このような　下らぬ存在に　泣いてくださるなどと
ほんに　おもうておりまりませなんだ

決して良い事ばかりではなき　我が猫生
いやしかし　日向で眠るがごときに　辞世でき申したこと
終わりよければ　全て良いではござらんか

今は早や　しばらく　苦痛のないこの場所にて
眠りを貪っておる次第でござる

いつぞやお目通りすることが　あるやもしれぬが
その節には　心より　御礼申し上げ候

・・・ね。　次はどんな姿をしているのか分かんないけど
毎日来ていたのにいなくなってしまって　外猫なのに
寂しい限りだよ。　次も猫として還ってくるなら

迷わずにウチにおいでよ　ねぇ？
キミは約束のにゃんこだ　絶対にね　だから
今度はあたしの腕の中で　ごろごろいっておくれ

作者補稿・・・。この浪人さんは私の実家の外猫さんです。酷い病持ちで・・・。

でも、埋葬出来たコト、本当に良かったです。

硝子のかけら

それは灼熱のなかで　溶け合い交じり合い
薄く　限りなく薄く　儚いほどに薄く
まるで　聖女が　朝日を浴びて祈りを捧げているかのように
美しい　シャンパングラスに似ている

命というものは　強くたくましく　けどでも
いつのまにか　この手のひらを　すりぬける

ダイアのように　何にも傷つけられない心
そんなもの　この世にありはしないよ
受けた傷を　じっくりと癒して　そうして
また　太陽の光を求め　全身にそれを受ける

ヒトとは　懲りない生き物かもしれない　でもね
１人じゃ生きて行けないこと　本能として気づいてる

硝子のかけら　儚すぎて　だから美しく　愛おしい
もし　あたしがだれかの光になれるのならば　惜しまないわ

命　愛　優しさ　それから求められるものすべてを
捧げよう　橋を　渡る　前に・・・

儚いからこそ・・・

どんなに望んでも　どんなに手を伸ばしても
叶わない　届かない

ちゃんと理解している　ちゃんと自覚してる
大人だもの　人間だもの

きみが残してくれた　記憶　匂い　柔らかな感触
きみがあたえてくれた　笑顔　やさしさ　暖かさ

ゲボクがしっかりしてないと　きみに心配かけちゃうしね
でもちょっと　心がゆるむと　あの日々を思い出す

永遠の夏　ひまわり　月　それから蝉しぐれ
呼吸を辞めてしまったきみを　抱えたとき
少し軽くなったような気がして　それはきっと
本当のきみが　旅に出てしまったからなのかなって

どんなに自分に言い聞かせても
どうしてもきみのことが　　忘れられないし
忘れたくない

命は　薄氷のように　儚く　脆く
命は　それでも　何よりも強く　輝く

命は　初霜のように　儚く　脆く
命は　それでも　何よりも美しく　輝く

だからこそ　哀しくて　胸が痛む
だからこそ　いとおしく　せつない

さぁ　おいで　きみが残してくれた　毛玉たち
きみのこと忘れないように　歩いていこうね

儚いからこそ　この世で一番きれいな宝石だもの

おくりもの

しょうじきいって　こまっちゃったんだよ　だって
こんなこと　よそうしてなかったもの　ねぇ？

うちにはかわいい　けだまさんがいる　けどでも
わがままで　いちにちじゅう　つきまとってくるし
おふとんにはいると　けだまがためで　あんみんなんて
できやしないし　けどまぁ　にゃんこだからって

でもさぁ　きみはニンゲンなんだよね　だから
よけいにこまるんだよ　だってきっと
あのときボクは　ままにあんなことされたって　いいそうだもん

なくのはいいんだけど　そのたびにおたおたしちゃって
ままだって　なきたくなっちゃうよ　あーないてるよね

だけど　むげんのみらいに　ままがみることができないせかいを
それをみることができるのは　きみだけだもん

それまでに　おおきなつばさができるように
それまでに　おおきなあいをふりまけるように

いっしょに　いきようね　まーいべび
ままもままらしくなれるように　つきにおねがいするから
いっしょに　ほんとうのおとなになれるようにって

よしよし　だっこしてせなかを　ぽんぽんってして
けだまさんも　きみのねがおをみて　ぐるぐるって

ゆっくりあるこうね　ゆっくり　ゆっくり
ままも　ちゃんとしたままになれるように　ゆっくりだけど
ちびっこなきみに　もっているすべてのあいを　あげる

さぁ　ねんねしてね・・・・
おやすみ　まーいべび・・・

そぉ　ぶるー　くりすます

まぁいいのさ　このじきにんげんがうかれてんの
おいらたちには　わからくもにゃい

いいのよ　ほんとに　くりすますだっけ？
あたいらには　あんまかんけいないし

けど　にんげんのおいちゃんや　おばちゃんが
いつもより　おいちいもの　くれるんだよね

おいら　あたいら　みーんなはぐれもん
けどでもさ　そんなうちらに　おいちいものくれるの

わかってるってば　いまだけだってこと
わかってるさ　にんげんだってひとりっきりじゃさみしいもん

いまはさ　おたがい　やさしさをわけっこしようね
あしたからは　どうなるのか　そんなんしらんもん

そぉ　べりー　さみしいくりすます
でも　だれかにやさしくしてあげたいんだよね
ぶるー　ぶるー　くりすます
ほんとうは　じぶんがふりまいてきた　あいってやつ
にんげんが　どうかんじてるのか　まぁ　それはいいや

めりーくりすます　いみわかんないけど
やさしいおじちゃんたちが　おいらにおいちいものくれたり

はっぴーくりすます　なんのことかわかんにゃいけど
いつもはさみしげにゃのに　きょうはたのしそうにしてるの

かみさまのかたちなんて　しらないよ
かみさまって　なんで　そんなことすんのか　しらないもん

でも　でも　このよるだけは　とくべつに
そう　そう　このよるだけだけど　とくべつに

にゃこのすぺしゃるさーびす　えへw
なでなでしてくれるもの　ぐるぐるゆっちゃうよ

ちっちゃくても　そのふところに　ぬくもりあげる
ちっちゃいけど　これがにゃこからの

ちょーうるとらすぺしゃるぷれぜんとにゃの

そぉ　ぶるー　くりすます
このまほうは　あしたには　きえちゃうもん

そぉー　ぶるー　くりすます
よがあけたら　またさみしくなっちゃうのね

そぉー　ぶるー　くりすます　ばっと！
いきていく　なにがあっても

めりーめりー　くりすます　えーんど
はっぴーにゅういやぁー

全ての生きとし生きる物に　無償の愛を・・・。

コメントする

振りまこう　笑顔を

さぁさ　このよにはつらいことがありすぎて
ほんとうの自分なんざぁ　もうわかりゃしないさ

つらいこと　さみしいこと　そんなものしかこのよにはあらしやねぇよな
それでもにんげんはいきていく　いのちの灯が消えるまで

だからこそ　カラ元気でいいからさ！
笑顔を振りまこう　たとえ自分が辛くてもね

しあわせそうなヒトがまとっている　空気
わかるでやんしょ？　それはね
いつも笑顔を振りまいてくれてんだからさ

権力も　銭も　そんなんいくらあったって　不幸なひと
いっぱいいてるやん？

なんにも持っていなくても　その笑顔　その優しさ
それが一番　心に響くってぇもんさ

くだらねーこというやつらはさ　みーんな
傷ついたことがある人は　その分他人にやさしくできるって

お笑いだよ　ふふふ
そんなきれいごと　だれが信じるのさ？　教えて欲しいわ

さぁさ。もうこの世は絶望的だ。だからこそ。
純真な笑顔を　振りまきたいんだよ　あたしゃぁね

作者言い訳＝これは別のハンドルで書いたもんでして。あ、どっかで見た、と思われたら、それを書いてるやつぁ、私のドッペルちゃんです（滝汗）

番外・じいちゃんとこにゃんこたち

あれからどれだけ時間が過ぎたんだろうか。
じいちゃんはあいかわらず、空き缶を集めて換金して、なんとかやっていた。
あの時、民生委員のおばちゃんに渡してしまったおちびちゃんたちのこと、忘れたことはない。

あれから・・・そうだなぁ、もう秋風が吹き始めていた。

「こんにちわ。」あのおばちゃんだ。
「お元気です？」じーちゃんはそんなことより聞きたいことがあった。
「・・・あのぉ・・・あのちびどもは・・・・」

おばちゃんがにっこりとほほ笑む。
「みんな、新しいおうちがきまりましたよ。」じいちゃんは、こっそりとほほ笑む。
「・・・すみません・・・。」
「やだわぁ。どうして謝るんですの？」
「・・・わし、こういう時、なんていったらいいか・・・。」
「ありがとうございます。」
「・・・はぁ？」
「あなたが保護してくれなかったら、みんな生ゴミ扱いになっちゃったんですよ。その命を救ってくださったもの。」
「・・・ただ、あの子たちの声を聞いたら、わし、なんにも考えられなくて・・・・。」
「みーんな、可愛がってもらってますよ。」

名前も教えてもらった。
「ちびちゃん、きなこ、それからみけちん、ですよ。・・・飼い主さんのお名前はお伝えできませんが、私たち、きちんと可愛がってくれているかどうか、調査してますから。」
じいいちゃんはなにもいえず、ついまた、
「すみません・・・。わしがちゃんとしていれば・・・。」この先、なにを言えばいいのか。
「お時間がありましたら、是非わたしのウチに来てくださいね」

ちびちゃん、きなこ、みけちん。・・・そぉかぁ・・・。
秋風はあっという間に木枯らしになる。でも。

悪いなぁ、おちびさん。・・・じいちゃんは、いつかのネコを思い出す。
お前のことが一番可愛い。でもな、新しい命が可愛がってもらえる家族に迎えられている、それが嬉しいんだよ。
今年は、あっという間に冬が来た。じいちゃんは相変わらず空き缶を集め、自転車に乗っている。

もしこの世に、本当に神様がいるのならば。

ちびちゃん、きなこ、みけちんに、途切れない幸せが続きますように・・・。
背中に冷たい木枯らしが追い打ちをかける。でも。
あの三毛姉妹には、暖かな住処があるかとおもえば・・・。

悪いなぁ、おちびさんよぉ・・・。

あのネコに想いいたる。

でもな、ワシが本当に大事に思っているのは、お前さんだからよ。でも、あのちびっこたちが幸せであることを、祈らずにはいらねぇんだよ・・・。

西の空に、きれいな金星が輝いていた・・・。

ううん・・・。わかってるよ。おいらのこと、いっちばんだいじにしてくれてたって・・・。

戯言・・・（むふふ）

　いつもご覧頂き、ありがとうございます。
　いぁ、ネタに詰まっちゃったんじゃないですよ？この「猫的〜」の表紙のにゃんこは、私の最愛のコなのです。
　ほんとーにわがままで、だいたい、私がゲームしてたり、ネット閲覧してたりすると、爪を立ててマジ殴りする問題児さんだったんです。

　けどねー・・・。逝ってしまった時は、ほんと、なんにも考えられなかったです。今から思えば、よく仕事ができたよなー・・・って。
　たとえ猫、されど猫。　子供が出来ない私には、かけがいのないムスメでした。

　故にレクイエムが多いのです。でもね、これって猫飼いの方々ならば、ご理解いただけるでなかろーかと。

　生き物は、全て愛おしい。　これが私の燃料でやす。

さぁさ　きのめどきだ

こないだは凄い雪が降ったんだけどさ　もう春が来るんだね
メジロたちに逢えなくなるのは　そりゃ寂しいけど
そんなこたぁどうでもいいや　来るんだよ
「きのめどき」がね

きは＝木じゃない　狂のきなんだよ
うっ屈した冬の寒さの中で　抑え込んでたはずの「狂」が目を覚ます
嘘じゃないよ　なんだったら精神科のセンセにきいてみな？
こわーいこわいお話が　いっぱいあるのさ

まぁ　偉い先生は云うのだろうね　アイツのために
まぁ　多分　精神校弱状態だってさ　まじー？

人間って勝手なもんで　時と場合によって命を秤にかける
それって　誰のため？　何のため？

人間って勝手なもんで　命は平等だっていう
それって　誰が決めるの？　何を守るの？

凛と咲いている梅の花がいう　気をつけてね？
散り際の琵琶の花がいう　逃げる用意をしてね？

やれやれ　やっといなくなったとおもったのにさ
狂の芽どき　ほかのニンゲンに　うつらなきゃいいけどね

できることならば　ニンゲンさんよ
こんなヤツらは　あさってにおくっちまっておくれ
ようやくひなたぼっこが　気持ちよくなってきたのにさ

ねぇ？　たのんだよ？

作者注＝関東で仔猫虐待のため執行猶予付きの鬼畜さん。最近、またぞろ動き始めているそうです。

ねこがみさま　ぐちってみる

そーかい　そーかい
かみさまはのんびり　あくびをする

わかってんだよ　おまえさんがさ　ニンゲンにどんだけ
だいじにされたかって
しってるんだよ　おまえさんが　ニンゲンにどのくらい
かわいがられてたのかって

しかしよぉ

ねこがみさま　ためいきをつく

どんなにかいぬしを　あいしてただなんて
つたわるはずが　ねぇんだよな
しかたがないさ　あいてはニンゲンだからね

いいえ　ねこがみさま　あたしのごしゅじんは
ひとばんじゅうないて　それからすべてのこと
みてくれたんですよ　だから　あたし　あいされてたんだって

・・・よのなかのねこが　みんなそうであれば
あたしのしごとも　らくになるんだけどねぇ

どこかで聞こえる悲しい声　許したくないよぉ
命は皆おんなじだって　いったい幾ら言えば伝わるのかいね
嫌だ嫌だ　今夜もまた
哀しいちびっこを　救ってあげなきゃね・・・。

ああ　猫神様　今宵もよろしゅうございます

全ての生き物に・・・。

のらねこものろーぐ

・・・そうかい。もうあの日がやってくるんだねぇ
てってを舐めながら思い至る
あんときゃさ　じぶんがいきのこることだけかんがえて
ひっしでおやまをのぼったのさ　おかげだからなのかね
だいすきだった　おっちゃんもおばちゃんも　きえちまったのさ
皮肉っていうのは　こういうことなのかいね

しばらくは　なにがなんだかわかんなくってよ
けどあれがなんだったのか　りかいできてから
あたしゃ　まいにち泣いてたんだよ
記憶っていったて　揺れて　そのあと　にげろって
それ以降は　なんにも覚えちゃいない

やだねぇ　でもさ　なくしちまったもんは
にどと　かえってやきやしないのさ

もう　あたしのなかまも　きえちまったよ
のこされたのはさ　あたらしい命たちだ

あんときの恐怖　しらないんだよね　いいんだよ
そのほうが　何倍も　幸せだよ
けど　おばちゃんはさ　あの恐怖を
ずっと永遠に　かたりつづけるのさ　永遠にね

神様ってぇのは残酷だ　だって
こんなちびっこたちも　あんたの思惑で
あの地震と　あの津波を　経験させるんだろ？

いや　それはその時になってから　わかるのかね
あんな離別をさ　ちびっこに
経験させたくないんだよ　なぁ？

年寄りの繰り言だって　思われたっていいさ
でもさ　けっきょく　助け合いできるのはさ
おんなじにゃんこだけだって　ほんと
それだけは　忘れないで欲しいのさ

さぁおちびちゃん　ひなたでぐるぐるしよう
もう　あんなこと　おきなきゃ　いいねぇ

はなは　いのちよりはかなく

さくらさくら　いつもとおなじはずなのに
さくらさくら　ことしは　なぜか　いろあせてみえる

さくらさくら　きょねんは　きみといっしょにみたよね
さくらさくら　でも　ことしは　きみがいない

はなは　このしゅんかんに　すべてをこめて
はなは　うつくしく　さきほこる

さくら　ひまわり　まんげつ　せみしぐれ
それはいきものが　えんえんとくりかえしてきた
いのちの　いとなみ　そして　いきてた　あかし

だけど　なにもかもが　きょねんより　ずっともっと
なにもかもが　あのときと　ちがうもの　みたいなの

のこしてくれたもの　うしなったもの
それは　はかりにかければ　たいしたことじゃないかもしれない

だけど　なにもかもが　きみがいたときとは
なにかがちがう　なにかが　そう　なにかが

きみのきおくは　わたしとともに　きっと
きみのきおくは　えいえんに　つづられる

はなは　またらいねん　おなじうつくしいすがたを
はなは　またきせつをこえて　さきほこる

いのちは　いのちのかがやきは
それは　みんなちがっていて　それでいいのよね

さくらさくら　はるのあらしに　はかなく　ちらされ
さくらさくら　それでも　まいとし　さきほこるように

ねぇ？　きみがおなじかがやきを　もっているのならば
ねぇ？　きっとまたあえるよね　わたしはまちがえないよ

もういっかい　だきしめたいの　おねがい
もういっかい　おいしいごはんを　たべようよ

さくらさくら　はるかぜに　まいおどる
さくらさくら　いつかもういちど　きみにあえるひまで
さくらさくら　さくらさくら　さくらさくら・・・・

悪夢は繰り返されるゆえに・・・

ああ！またこの夢だよ！　勘弁してよ　この先の展開は知っている！
これはあの日　あの時の繰り返しじゃない！

目の前で　最愛のにゃんこが横たわって喘いでいる
この次に　あたしはこのこをベッドに連れて行って・・・

早朝　眠っている夫を起こす
「もう、このコ、逝っちゃうよ・・・。」
二人で撫でてあげる　そうして・・・

これ以上　誰が逝くのも見たくはない　でも
命の輝きは　あたしのこころを　強く引きつけて離さない

見なかったコトになんか　できない　そんなの無理
血統書が付いていても　そんなの関係ないみたいに
廃棄される　遺棄される　放置される　そして・・・

どうして　あたしはこの夢を見続けなきゃ　いけないの？
だって　あのコのことは　本当に愛してたのよ？

あたしの　イイ時も悪い時も知っている　いつも寄り添ってくれた
あたしは　あんたのオカーチャンなつもりだったけど
あんたにしてみれば　「放置しといたらヤバい」
あんたにしてみれば　「手間の掛る奴じゃのぉー」って

何度でも繰り返すよ？　愛してた　愛してた　愛してた・・・
でも　あと３回は　逝くのを見守ってあげないとねぇ

愛してた　愛してた　だって毛皮をマフラーにしたいくらい
愛してた　愛してた　でも天国で寒い思いはさせたくないもの

今はもう　猫神様になって　これから来るコを
今はそう　待っててくれているんだもの

ああ　また同じ夢を見てる　勘弁して・・・
その先は・・・　！

さくらさきて　あめぞふる

はるはさくら　ようやくさきそろい　はるはここにあぐらをかき
さくらさくら　まんかいのはなのくもに　あめぞふる

きおにのなかのさくらには　まぎれもなく　きみがいた
あめにぬれ　だきかかえたうでのなかでも　ぐるぐるいっていた
かぜひくからだめよって　いつもいっていたようにおもう

さくらさくら　はなはさきて　つめたいあめのなかに
さくらさくら　さむいだろうね　でももうすこし　ちらないでね

ひとにくらべれば　はかないいのちの　きおくをいろどり
はながさくかぎり　えいえんに　なにもかも　わすれない

はなはやがて　はるのあらしが　すべてをまきこみ
そのまま　うすべにのかがやきになって　はしをこえ
ああ　ことしもこんなきせつがきたのだと　つたえてくれるだろう

そしてまた　かえってくる
はるかぜとともに・・・

さくらさきて　あめややまん

いそぎあしのてんしちゃん

まるでねむっているようなよこがお　ううん　そう　ねちゃったんだよね
きょうだいそろって　なかよくねんね　ああ　でも
あと　１にちはやくきがついていたら
あたしがあのとき　いつもとちがうほうこうに　おさんぽいかなきゃ
もっと　はやく　あえたかもね

そおっとふれると　まだ　たましいのかけらが
おひげや　しっぽのさきに　ちょこっとだけど　のこっている
そのしょうこに　けなみはふんわりしてるし
いまにも　めをさまして　「あそんで」っていいそうだよ

あたしはせめて　かみさまに　このたちにつばさをあたえてって
あたしはせめて　かみさまに　このこたちがまよわずに
はしをこえて　かなしみもくるしみもないせかいで
じゆうにとびまわれるように　いのることしかできない

たしかに　いきることはたいへんだよね　でも
てんしちゃん　そんなにいそがなくってもよかったのにね

そうそう　はしのむこうには　あたしのかわいいムスメがいるから
ちゃんとつたえとくから　あんしんして　たよってね

いそぎあしのてんしちゃん　おみみとしっぽのついたてんしちゃん
いそぎあしのてんしちゃん　あたしはずっと　わすれないから

いそぎあしのてんしちゃん　きっとまたあえるよね
いそぎあしのてんしちゃん　でもちょっとあせりすぎだよ

こんどはゆっくり　あたしのうでのなかで　ゆっくり
ぐるぐる　ごろごろして　きせつがうつりかわっていくのを
のんびり　ひだまりで　かんじていこうね　あたしといっしょに

いそぎあしのてんしちゃん　おみみとしっぽのついたてんしちゃん
いそぎあしのてんしちゃん　あたしはずっと　わすれないから

かみさま　このこたちをおねがいします　そうして
まちがいなく　あたしがこのこたちに　もういちど
まよいなく　あたしとあうことができますように
おちからを　かしてください

いそぎあしのてんしちゃん　いそぎあしのてんしちゃん・・・。

花の色

梅雨の合間に　のうぜんかづらの花が咲く
それは甘いだいだい色　記憶の彼方に　棲んでいる

それはあの夏休み　それはあの日々の記憶
そして今　それが　あの子の周りを　飾っている

子供すぎて　分からなかったこと　それと
子供だからこそ　感じることのできた　空気の色

それは　緑の中に咲く　柘榴の花のように
それは　儚げに咲く　むくげの花のように

記憶の中に　季節の匂いと供に　刻まれ
あの日の記憶を　強烈に思い起こす

悲しみって　喜びって　なんだろう
どうしたって　白檀の香りとともに　蘇ってくる

たしかに　あたしはその場所にいた　でも
なぜか　その自分の　後ろ姿しか　覚えていない

哀しすぎるから　辛すぎるから　逃げているんだね
それを全て　あたしの記憶には　したくないんだね

この美しいのうぜんかづらは　花が朽ち果てるまえに
その首から落花する　だから　あたしは
あのキレイな姿しか　覚えていない　記憶にない

あのこは今　のうぜんかづらの雨の中にいる
降り注ぐ　ひぐらしの声　それから夕立　湧きあがる薄霧

もうじき　あさがおや　ぎぼうしの花がさく
もうじき　ひまわりが　なでしこ　おみなえし　われもこう

その色が呼び起こす　匂い　記憶　風景
そうしてあの子の事を思い出して　固まるあたし

のうぜんかづらの　花の雨　のうぜんかづらの　花の色
あの日の記憶　戻らない時間　そして　そして

のうぜんかづらの　花の雨　のうぜんかづらの　花の色

わたしたちの　ねがい

わかってるの　こんなこといったら　ままやぱぱがどんなにかなしむのか
つよがりじゃなくって　ぼくらはままとぱぱのなみだ　みたくないんだ

がんばってるつもりなんてない　ほんとなのよ
そんなことよりも　ずっと　ずっと
ぱぱとままのなみだ　みたくないんだ

ぼくたち　あたしたちが　ほんとうにさみしくって
いきていくことさえも　くるしくって　どうしたらいいのかわかんないとき
ぱぱとままが　やさしくむかえてくれたの　えいえいんにわすれたくないの

ぼくがぐるぐるすると　ままがなでなでしてくれる
あたしがすねちゃうと　ぱぱはひっしでかわいがってくれるの

わがままでごめんね　でも　しってるの
じぶんかってじゃないよぅ　ちゃんとわかってる

どれだけ　あいされてるのか　だからそのぶん
どんだけ　おかえししなきゃいけないのかって

けどね　かみさまがよんでいるの　こっちにこいって
だけど　それよりもずっともっと　ねぇ？

あたしたちは　ここに　ぼくたちは　ずっとここに
ぱぱとままのそばに　いたいの　いさせて？

いのちのほのう　もう　あんまりながくはないね
そろそろ　ろうそくがきえかけてる　きづいてるよ

ねぇ　ぱぱ　まま　おねがいだよ
ぼくたち　あたしたちのこと　えがおでみおくってね？
そのうでのなかで　えいえんにねむることを　ゆるしてね

ううん　いまさらいわなくてもわかってくれてるよね
そうそう　ままにならわかるよね　きっとぜったい

いのってる　ぼくらがいなくなっても
いのってる　あたしがきえても

ぱぱもままも　きっとずっと　おぼえてくれてるって
ぼくたちはそれだけで　じゅうぶんだよ

あたしたちはそうしてくれれば　すんごくしあわせ

ありがとう　ありがとう　ぱぱもままもだいすき
つぎもまた　ここにかえってくるからね　ねぇ？

ありがとう　ありがとう
だいすき　だいすき　だいすき

ぱぱ　まま・・・。

ある、なつのひ

あさやけをあびて　くもがかがやいてる
やだにゃぁ　きょうもあつくなるのかにゃぁ

けど　きのせいにゃのか　けさはそらがたかいにゃ
いまだったら　まだすずしい　がんばって　ぱとろーるにゃ

まいにちみてる　でも　まいにちなにかがちがう
あきちやはらっぱ　どんどんなくなるにゃ

ニンゲンって　どんだけふえるのにゃ？
にゃんこ　どんだけへっちゃうのにゃ？

あたち　おいらたち　じぶんがいきるだけでひっし
あたち　おいらたち　きょうもゴハン　たべられるのかにゃ？

がんばれってことば　すきじゃにゃい
がんばんなくっても　いきていくんだもん
がんばれって　ほんとはニンゲンがスキなことばじゃにゃい？

まぁどーでもいいや　てちてちてち
ニャンコはいつだって　マイペースにゃ　てちてちてち

まずはきょうを　きりぬけよう
あしたのことは　それからかんがえりゃ　いいのさ

ねぇ？　おつきさま？

流れの　なかで・・・

電車がね一緒に同じ方向に動いているとさ　ねぇ？
どっちが早いのか　分かんなくなるんだよね

・・・これって　いつどこで　誰に聴いたんだろう
ぼんやりと　車窓を見ながら　ふと思い出す

あたしは前に進んでいるのだろうか　ねぇ？
お前さんとニンゲンと　どっちが早いんだろうね

結構毛だらけ　猫灰だらけ　キャリーのなかで
ぶいんとふくれて　返事もしやしない

ただひとつ断言できること　それは
なにがあっても　お前さんを置いてけぼりにはしないって事
その為になら　あたしはなんでもするよ　ホントだってば

ただひとつ心配なこと　それは
ニンゲンの神様が　あたしのわがままを　どこまで聴いてくれるのか
その為になら何をしてもいいけど　なにを捧げたっていいけど

命って　所詮　大きな流れのなかの　小さな石っころ
それはお前さんもあたしも同じだよ　多分きっと
命の重さって　多分　お前さんもあたしも同じさ
ただちょいと　行き先が違うだけなんだよ　多分きっと

今夜は美味しいゴハンにしようかね　ねぇ？
お前さんが喜んでくれりゃ　それがイチバンさ

さてさて　マグロかね　かつおかね
さてさて　猫神様　この子をお守りください
さてさて　ささみにしようかね　それとも白身がいいかい？

ああ猫神様　せめてこのコがきちんと
ああ猫神様　虹の橋を　ちゃんと渡れますように

なむなむ・・・

追憶と　幻影と

あーあ　歳を取っちゃったのかなぁ　ヨメがぼそっとつぶやく
それはお互い様だよ　ニンゲンとあいつらとじゃ
時間の流れ方もちがうし　そういうもんさ

もう　いなくなってから　どの位たっているのか　そんなこと
忘れちゃいないし　現実を受け止める理性もあるよ
なのに　なぜだか　あいつらが元気で　やんちゃしまくってた
あの姿が　どんどん鮮明になっていくし　夫婦で爆笑したりしてるし

でも最後には　お互いどちらからともなく　無言になっちまって
そんなゲボクどもを　あんたたちまたやってんの？って
毛玉たちが　覗きにくるし　文句を言いにくるし

アタシのかーちゃんがさ　自分ちのムスメがさ
ヨメは云いにくそうに　でも　そうしないとどうもこもならんの
そんな気持ち　分かっちまうからこそ　黙ってうなずく

お互い思い出すのは　元気だったころの姿
同じくらいに　腕の中で覚めることのない眠りに落ちた姿

あのふかふかなぬくもり　すり寄ってくる姿　それと
体温と一緒に消えていく　命のかけら

今年は　あの日から　何年　何カ月　何日たっているのか
ゲボクどもは　忘れちゃいないし　なんせせっかくのお祝いなのに
むすっとしてる　写真が　あのこらしさを現わしてる　それが
救いだったり　哀しかったり　嬉しかったり・・・

こっちもおっさんになっちまったしね　ふふっ
ヨメが　あたしらが行ったときに　様変わりしてたら　きっと
わかってくんないよ　っていつも愚痴ってるし

ああ　こっちは大丈夫だよ　多分きっと
それでも　明け方に　逢いに来てくれてるんじゃないのって

なぁ　歳を取ったのはヨメだけじゃないんだよ
涙腺　どうしたら　元に戻るのかいねぇ

来月の　今日なんだよな　今年もちゃんと
うなぎ用意しておくからさ　なぁ　来ておくれよね